

第12回 群馬県少子化対策推進県民会議 概要

1. 日 時 平成28年8月26日(金) 10:00～11:40

2. 場 所 群馬県庁29階 第1特別会議室

3. 出席者 県民会議委員 9名、代理委員 1名

4. 会議内容

- (1) 「群馬県次世代育成支援対策 平成27年度の取組状況」及び「ぐんま子育て・若者サポートヴィジョン2016」について
- (2) 地域少子化対策強化(重点推進)交付金事業について
- (3) 少子化対策推進に関する意見交換

5. 部長あいさつ要旨

今回第12回を迎える本会議は、県政の最重要課題であり根幹に関わる少子化対策に係る様々な取り組みに対して、それぞれの立場からの御意見をいただきました。特に昨年は、「ぐんま子育て・若者サポートヴィジョン2016」の策定に御尽力いただき、県の総合計画とも調整が図られた新しい計画を策定することができた。この計画をもって、「家族形成支援」「子育て支援」「両立支援」の三本柱で推進し、結婚、妊娠・出産、子育てに温かい社会の実現に向けて力を注いでまいりたい。

H27年の本県の合計特殊出生率は1.47で、前年よりわずかに上昇した。人口を維持するには遠く及ばないが、少しずつ積み重ねていければと考えている。

昨年度の健康福祉部こども未来局から、子どもの施策を推進していくために、こども未来部として今年度はスタートしている。今まで以上に、関連する各課と連携しながら業務に取り組みたい。委員の皆様には、各事業についてだけでなく少子化対策全般について幅広い御意見をいただきたい。

6. 片野会長あいさつ要旨

この県民会議の目的は、少子化対策に関して意見交換をしていただくことであり、限られた時間ではあるが、全員のみなさんから御意見をいただいて実りある会議となるよう御協力をお願いしたい。

7. 新任委員紹介

群馬県PTA連合会 横倉 美香委員

8.

(1) 議題 1

質問・意見	回答等
今後の次世代育成対策の推進は、毎年事業実行計画を作成し、サポートビジョン2016の進捗管理を行うということによいのか。	そういうことである。
「放課後児童クラブひとり親家庭利用料補助」のしくみについて、説明いただきたい。	H27年度新規事業として実施した。求職中のひとり親が、就活に際して放課後児童クラブを利用した場合補助するもの。市は1/2補助、町村は全額県費。補助要件に合致する利用者がおらず、結果として利用者0人であったため、H27年度で事業終了した。

(2) 議題 2

質問・意見	回答等
「ぐんま育児男子」が好評とのことだが、夫婦の協力だけでなく、男性の育児休業の取得についても記載があるとよかったのではないか。H28年度の「さんきゅうパパプロジェクト」で、その視点を取り入れて欲しい。	「さんきゅうパパプロジェクト」の中で、男性の育休取得推進を取り上げていきたい。
「結婚応援パスポート」に期待している。定着しているぐーちょきと合わせながら、推進して欲しい。現在の、協賛予定店舗の状況はどうか。 ぐーちょきの普及は目覚ましい。ぐーちょき同様に、こちらも期待している。	ウェディング業界各社と意見交換を行い、協賛を募っている。ぐーちょき協賛店のうち婚礼関係企業を中心に、少なくとも250~300店舗程度見込んでいる。今年度の目標店舗数は、500店舗である。
「未来の家族への手紙コンクール」を読むと、よい作文が多い。今年度第2回とのことなので、期待したい。	

<p>「結婚応援フォーラム」は学園祭で同時開催とのことだが、学園祭時のイベントは、学生は運営側で忙しく、参加しにくい。</p>	<p>委員御指摘のとおりである。当初学園祭での開催を検討したが、学生の参加しやすい体制を整えるため、別日程で準備を進めている。</p>
<p>交付金事業の流れについて知りたい。</p>	<p>内閣府による事業である。県予算編成と時期が異なるので、難しい。</p> <p>国予算次第だが、必要な事業である。結果的に採択されない場合でも、趣旨を活かして取り組む等工夫していきたい。</p>
<p>この交付金事業は富岡市も実施したようだが、県に実績報告はあったか。</p>	<p>本日の資料には無いが、子育てに関するスマホ対応アプリを作成した。県に報告をもらい、国にも報告している。</p>
<p>自分の将来について、小中9年間連続して未来像を書かせる学校もある。「未来への手紙コンクール」の周知方法はいかがか。</p>	<p>夏休みの課題にしてもらえるように、学校を通じて周知を図っている。</p>

(3)議題 3

質問・意見	回答等
<p>地域包括ケアシステムは、高齢者のためだけでなく、全世代に必要である。地域が一緒になって子どもの問題に取り組むことが、全世代に広がる。市町村の保健センターを核にして、少子化対策に取り組んで欲しい。</p>	<p>児童虐待に対応するため、母子保健事業を通じた防止対策はたいへん重要である。母子健康包括支援センター(子育て世代包括支援センター)の、全市町村への設置を推進している。妊娠・出産、子育てまでを、保健師らが情報を把握するシステムを構築していく。また、特に支援が必要な場合の拠点整備を進めている。</p> <p>県では、市町村が取り組む際の助言指導や人材育成を充実させていきたい。</p>

<p>労働局関係資料について説明したい。女性の活躍と働き方改革は車の両輪として厚生労働省は進めている。またハラスメント対策も一体的に行っている。次世代法に基づく「くるみん、プラチナくるみん」に加え、女性活躍推進法に基づく「えるぼし」認定も推進していきたい。</p> <p>育児・介護休業法が改正され、1月1日から施行される。育児及び介護離職ゼロを目指して、進めていく。</p>	
<p>各市町村も様々な婚活事業に取り組んでいる。地域の情報を、1か所でまとめて発信してもらいたい。</p> <p>女性活躍の推進に、学童保育は欠かせないが、定員が非常に少ない。保護者会運営が多く、学童運営の負担が大きい。</p>	<p>学童保育は、各市町村子ども・子育て支援計画に基づき進めている。補助金を活用した市町村の整備事業を、県も支援していきたい。</p>
<p>保育園の建設が、地元の反対によりできなかったとのニュースがあった。地域の問題について、お互いにコミュニケーションが取れるとよい。虐待の発見等、地域のコミュニケーション力が強化されるとよい。</p>	
<p>若者の結婚の阻害要因に、奨学金問題がある。経済的に困難な子どもへの教育の機会創出に、ふるさと納税が活用できないか。</p>	
<p>学費の問題は大きく、退学が経済的理由によるケースは多い。</p> <p>現在の奨学金は、大学独自の給付型に加え、学生支援機構のものだが、地方創生の戦略として奨学金の創設が必要だ。群馬県に戻りたい学生を支える奨学金制度の新設は、少子化対策だけでなく、地方創生に対応する。</p>	

<p>「第3子以降3歳未満児保育料無料化」により、市町村の負担が2,500～4,000万円の負担増になっている。再考いただきたい。</p>	
<p>次年度以降、サポートヴィジョン2016の進捗を確認するに際し、施策の説明が事務局としてできるように、関係各課も出席願いたい。</p>	
<p>看護協会は、女性が85%なのでワークライフバランスの推進に力を入れている。子育て中の人だけでなく、独身者にも重要である。また、企業側の運営にも好循環が働き、有効である。国、県、市町村が一体となって、ワークライフバランスを推進していただきたい。</p>	
<p>学童の経営は厳しく、儲からない。群馬県のM字曲線は上がっているが、今後は質の問題、つまり非正規から正規への移行が問題になってくる。その場合も、学童保育の問題は重要だ。</p> <p>少子化対策と地方創生は一体のものだが、流出を抑える意識改革の時代は過ぎ、経営戦略としてのワークライフバランスの推進を企業と共に行政が進めていく、対企業の事業がもっとあっても増えてもいいだろう。</p> <p>また前橋市の地方創生戦略として、地方創生時代の子育て支援をテーマに議論をした。子育てだけでなく、就職、住宅、健康、お金等包括的に相談できるシステムが必要だとの意見があった。</p> <p>さらに、女性活躍を推進するには、既婚・未婚、子どもの有無、有職・無職等様々な立場の人の誰もが、それぞれの視点から意見を出せ、誰もが暮らしやすい社会づくりをするよう意識していかなければならないだろう。</p>	

<p>「ぐんま育児男子」はどこでもらえるのか。</p>	<p>市町村子育て関係課、産婦人科、県で配布している。またHPで電子書籍化している。</p>
-----------------------------	--